

互いの学びの質を高め合う協同性を育てるための支援の在り方
～個性を生かした異年齢とのかかわりの視点から～

保育指導案 3年保育年少（3歳児）

「身近にある木の実であそぼう」

3歳児 もも組 男児9名 女児6名 計15名
（*5歳児 さくら組 男児22名 女児13名 計35名）

1 最近の幼児の姿

【3歳児】

〈興味・関心・遊びの内容〉

○ 園内の自然に対するかかわりは、5月頃より、ダンゴムシやテントウムシを捕まえることに断続的ではあるが、続いている。花壇をじっとみて探し、動いていた姿を見せていたりするのを見つけるといった様子である。虫にさわれない幼児もいたが友達と一緒に探せるようになってきた。

9月に入り、バッタとりへの関心が強まっているが、草むらがないので、園内では、雰囲気を味わうにとどまり、虫がテーマの絵本やミニ図鑑に興味をもって見ている。

地域の自然や自然物へのかかわりは、1学期のイチゴ摘み・9月の親子ブドウ狩り・公民館訪問といった園外保育や小学校の雑草園での虫取りなどの経験がある。しかし、目に見えている自然に十分触れ楽しむ経験に至っていない。

○ 9月下旬より、園のまわりにある秋の自然物（フウセンカズラ・ジュズダマやオナモミ・ススキ）に触れたり、秋に収集できる自然物（ドングリやマツボックリ）に興味をもってきている。自然にかかわって遊ぶ内容を豊かにして適切な環境を設定することで自然に対する親しみをもたせながら学びを豊かにしていきたい。

○ 運動会を経験し、走ることや友達と一緒に踊ることの楽しさを感じた子ども達は、年長児が行ったリレーごっこを4・5歳児に混じって繰り返し楽しむ幼児が80%もいる。特にダンスはあこがれをもち、一緒に踊って、年長組と同じことをする喜びを感じている。

〈人とのかかわり〉

○ 9月に入り、言葉の育ちの高まりが見られ、同じ場にいて一人でもくもく遊んでいた姿から、「○○が（自分で）する。」「（ボタンしてくださいと教師に頼む声を聞いて）私がしてあげるよ」「電車、出発しまーす。」「（お弁当をみて）いっしょやね！」と友達に声をかけ合い遊ぶ姿が目立ってきた。

かかわりが増えてきたこと、自分の思いも十分ではないが言葉に出ていることでトラブルの場面も増えてきている。

○ 年長組に兄がいる幼児が5人、年長児と同じ集合住宅の幼児が一人おり、日常的に一緒に砂遊びや粘土遊びを一緒にしたりしている。また、登園後、日常的に全園児で、アイダアイダ体操を異年齢2人組になり行っているが、1学期は兄弟関係や顔見知りの幼児同士の組み合わせが自然とできていた。

運動会で3歳児の大きなあこがれとなった5歳児とのかかわりを生かして、これまでの5歳児の学びを、遊びの中で3歳児の学びに生かしていけるように、環境の設定と教材の工夫を図っていきたい。

【5歳児】

〈興味・関心・遊びの内容〉

- 運動会で発表した竹馬やリレー・ダンスをを友達や3・4歳児と一緒に引き続き挑戦している。
- 男児は園内のクヌギの緑の実やバッタを見ついたりつかまえたりして喜んだり、家でつかまえた虫の名前を教えたり見せ合いながらかかわっている。

〈人とのかかわり〉

- 異年齢でペアをつくってかかわりあう体操では、3・4歳児に自分から声をかける子どもが増えてきた。日常の遊びの中でも砂場やブランコで、一緒に遊ぶ姿がときどきみられる。

2 期のねらいと内容

○3期 3歳児（9～12月）・・・研究主題に関連した部分を抜粋

- 【人間関係】○ 自分のしたい遊びを見つけ、友達と一緒に同じ遊びをする楽しさを味わう。
- ・ 好きな遊びを見つけ、安心して遊ぶとともに、友達と一緒にいる楽しさを味わう。
- 【環境】○ いろいろな遊具や素材に興味や関心をもって、使ったり遊んだりする。
- ・ 自分のしたい遊びを見つけ、それに必要な遊具や用具・素材などを自分なりに選んで遊ぶ。
 - 身近な自然や動植物に触れる。
 - ・ 木の実や木の葉、秋の草花や種子を集めたり遊びに使ったりする。

○12期 5歳児（9・10月）・・・研究主題に関連した部分を抜粋

- 【人間関係】○ 友達と力を合わせて競い合ったり、ルールを守ったりして遊ぶ。
- ・ 集団的な遊びを楽しみながら、ルールの必要性がわかる。
 - 身近な人に、親しみや関心をもってかかわる。
 - ・ 身近な人に積極的にかかわりながら、喜びを共感し合う。

○13期 5歳児（11・12月）・・・研究主題に関連した部分を抜粋

- 【人間関係】○ 友達との遊びを進め方など相談しながら、自分たちで遊びを展開しようとする。
- ・ 友達との共通のイメージや目的をもって遊びを進める。
 - 3・4歳児との活動に興味をもち、楽しく触れ合う。
 - ・ 3・4歳児を遊びに誘ったり、一緒に遊んだりする。
- 【環境】○ 身近な自然と触れ合って、遊んだり生活の中に取り入れたりする。
- ・ ドングリや落ち葉などの秋の自然物を遊びに取り入れる。

3 保育計画

【こんな教材で】

- 【3歳児】○ 園庭や園の周りにある木の実など、実際に収穫したものや目に触れることができるものを使って、自然への興味を高めたい。
- 3歳児が5歳児より、真似たり教えてもらったりしながら、かかわれるもの
 - 単純で、楽しいと感じられ、繰り返し、遊べるもの
- 【5歳児】○ 友達と一緒に相談したり協力したりしながら工夫してきた遊びをもって、3歳児に教えたり手助けしたりすることによって、自分の知っていることや自分の考えを確かなものにしたい。

【こんな子どもに】

- 【3歳児】○ 身の周りの自然物を使って遊ぶことがきっかけとなり、自然への関心を高めたり、その特色に気付いたりする子ども
 - 5歳児にかかわってもらふことで、助け合って活動することのおもしろさを感じる子ども
- 【5歳児】○ 身の周りにある自然の性質や仕組みに気付き、自分の遊びを楽しくしてくれるものと捉えるこども
 - 自分たちの遊びに誇らしさを感じながら、5歳児の遊びを真似たり仲間に加わったりしようとする3歳児と一緒に遊んだり教えあったりする子ども

【こんな方法で】

- ① 互いが認め合い、高まっていくような協同性を育てる活動づくり
 - 意識が連続する課題設定の工夫
 - ・ 実際に自分たちで収穫したり見つけたりした愛着のある自然物を使うことで、繰り返し同じものをつくったり、同じ素材で新たなものをつくったり、同じ素材で新たな遊びを生んだりする意欲がもてるようにする。
 - ・ 科学絵本や図鑑を準備し、いつでも手にとって見ることができるようにする。
 - 関係を生み出すグループ構成の在り方
 - ・ 興味・関心に基づいて、当日の遊びが展開することを予想し、担任同士が毎日、それぞれの遊びのコーナーで、遊びの様子・遊びの進め方・遊びにみられる工夫・活動中にみられる異年齢のやりとりを情報交換し、2～3人、4～5人グループの少人数グループで展開できるように場の設定を行う。
- ② 異年齢とのかかわらせ方
 - 異年齢とどこでどのようにかかわらせるか学習過程の工夫
 - ・ 日常的に機会を捉えて、3歳児には5歳児の頼もしさを、5歳児には年長者として期待していることを伝え、互いが相手を意識して行動できる雰囲気づくりをしていく。
 - ・ 前日の誕生会での会食を活用し、兄弟関係のない幼児を主体に5歳児と同席にしたり、自分がやってみたいと思う遊びをしている5歳児と一緒に席となるように担任同士で配慮する。
- ③ 学びの質をとらえる方法
 - 子どもの言葉・活動からの見取り
 - ・ 活動中の子どものつぶやきや行動を見取り、新しい気付きや工夫点、その子なりの喜びや驚きが表われている姿を記録し、子どもの学びの姿として整理する。

【指導計画】

	幼児の活動	教師の援助	期待できる姿・表現
つかむ過程	<p>【秋と出会う】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ アサガオ・オシロイバナの種とりやフウセンカズラの種取りをする。 ○ 園庭のバッタやカマキリを見たり、つかまえたりする。 ○ ブドウ畑を散歩して、ジュズダマ取りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 収穫できた種をビニル袋に入れて掲示していく。 ○ 小さなビニル袋を準備する一人一人が自分で取れるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 黒くなっている種を探そうとする ・「カマキリみたいなムシがいるかな」 ・「ネコジャラシもあるよ」
さぐる過程 10月15日 10月22日 23日 25日	<p>【秋にかかわる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ジュズダマ（の実）ちぎりをする。 ○ 原っぱへ全園児で散歩する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ オナモミやクズのつるに興味をもって触る。 ○ 園庭や家庭より、秋になる実や落ち葉などを集め、集めることを楽しんだり、色の違いや大きさ・形の違いに気付いたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師が実を取ったり、4・5歳児に呼びかけて一緒に取ったりする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ジュズダマ特有の匂いを感じる。様々な色の実があることに気付く。 ○ オナモミ（ヒツキムシ）の実に気付きやすいよう葉の形にも目が向くように示す。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 感触を楽しんだり、ツルの強さを感じたりする。 ○ 箱を準備し、種類ごとに入れられるようにする。（サクラ・イチョウ・稲穂） <ul style="list-style-type: none"> ・ 葉を色画用紙に張りペンダントをつくる。 ○ お月見だんごづくりにむけて、ススキを取りに行き、触れさせる。 ○ わらに触れて遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「なんかにおうね」 ・「白いもとると」 ・ 集めた実を手で触る。 ・「オレンジも黄色も緑もあるよ」・「これ？お米？」 ・「いたい！」 ・「どうやってとるの？」 ・「どこにあるの？」 ・「黄色い葉っぱがあったよ」 ・「オレンジのところもあるね」 ・「ほうきだよ。そうじしよう」「くすぐったーい」 ・ のったり座ったりすると気持ちいいな
深め広げる過程 10月25日 29日 30日 31日 (本時)	<p>【秋で遊ぶ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 園庭や小学校の庭、登・降園の道でみつけた落ち葉や木の実を集めることを楽しむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ヨウシュヤマゴボウの実に気付く。 ○ 「秋の木の実をつかって遊ぼう。」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 親しみのある木の実や落ち葉を楽しんで、遊びに活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 身につけるものを作る。 ○ 実で遊ぶ。(色水遊び・マラカスづくり・ネックレスづくり) 	<p>「(ネックレス) わたしもつくりたい。どうやって、つなげていくの？」</p> <p>「どうして、色がついてるの？」</p> <p>「どうしたら、色が出るの？」</p> <p>「つぶしたらいいんだ。色がにじんできたよ。きれいだな」</p> <p>「私もそんな色にしたいな？水を入れるんだ！粒をたくさん入れるんだ！」</p>

○ 幼児それぞれの楽しさ・気付きを認めてい

5 本時指導の考え方

子ども達は、身のまわりの秋の自然物に触れる体験をジュズダマ取りやオナモミ摘みの園外保育を通して、ジュズダマ・オナモミ・エノコログサの名前や存在に気付いてきた。

また、園内では、クヌギの実が色づいたり、フウセントウワタの結実や綿のような種がはじけ出すのを楽しみに待ったりしてきている。

近隣に幼児の興味をひく自然物が少ないという環境をふまえ、落ち葉の質も量も期待が出来ない中で、これまでの園外保育で楽しんだ思いを活かし、日常の遊びに活用する楽しさを味わってほしい。

限られた自然の恩恵物（子ども達がよく目にし、触れることの出来るもの）を自分たちの思いに沿って、生活や遊びに活用しながら、自然物を取り入れた遊びの楽しさや手にしている自然物そのものへの愛着が増すことを期待している。

日常的に5歳児の遊びを目の当たりにし、“真似したい”“一緒にしたい”という願いに応じることで、3歳児の一人ひとりが充実感を味わい遊びに没頭できると期待する。教師は、5歳児と3歳児のかかわりを促したりつなげたりする配慮をして、5歳児がもっている技術や知恵を3歳児に教えてもらったりしてもらったりしながら、自分の思いがかない、できないところができるということ喜びを得てほしい。

また、5歳児は、3歳児に教えたり3歳児と一緒に繰り返すことで、秋の自然に多く触れたり自分の考えや方法を再確認する学習の場としてほしい。

6 本時のねらい 10月31日（水）

3歳児	ねらい	○ 友達と一緒に、身近にある木の実や落ち葉を使った遊びを楽しむ。 ○ 5歳児の遊びに興味をもち、5歳児を模倣して遊ぼうとする。
	内容	・身近にある木の実を使って、友達と一緒に遊びに必要なものや身に着けるものをつくったりして遊ぶ。 ・5歳児と一緒にしたり教えてもらったりすることを喜びながら、5歳児と同じ遊びをすることや新しい発見を楽しむ。

5歳児	ねらい	○ 秋の自然物に触れ、その美しさや不思議さを感じながら遊びを楽しむ。 ○ 友達と考えをあわせたり年少児に教えたりしながら、遊びを進めていく楽しさを味わう。
	内容	・身近にある木の実を試したり工夫したりして、遊ぶ。 ・自分の知っていること・気付いたことを3歳児や友達にわかるように教えたりできないところを手伝ったりして、3歳児と一緒にかかわりながら楽しんで遊ぶ。

（準備するもの）

- ・空き容器 [ペットボトル・乳酸菌飲料容器・紙コップ]
- * カセット一式（曲入りカセット持ち運べるカセットデッキ）
 - ・ジュズダマネックレスの糸
 - ・色ビニルテープ

7-①本時までの活動の流れ

期日	幼児の活動		5歳児と3歳児のかかわり
10月25日(木)	<p>【5歳児】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 洋種ヤマゴボウの色水をつくる <ul style="list-style-type: none"> ・各グループでペットボトル半カップに入れた水に粒をつぶして遊ぶ。 <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>弁当後も自由に遊ぶように、また、他クラスの幼児とのかかわりのきっかけとなるようにテラスに出しておく。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ ジュズダマネックレスをつくる。y児・k児・a児 	<p>【3歳児】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師がA児を誘って見に行く。(土ダンゴづくりに興味をもっていたため、触れず) ・朝から、C児がM児に誘われ作り始める。また、H児もひととおり、遊んだあとネックレスのところにすわりy児・k児に教えてもらう。D児・N児も興味をもつが見るだけに終わる。 	<p>⑤y児「ブルーベリーの実をね、こうしてつぶしていくの。これには、1個、これは2個、・・・て入ってるの」</p> <p>⑤y児「このまんなかに入っているから、指でひっぱりだしてね。とれたら、この中に入れて、そしたら、穴があるから、糸をとおしていくとよ」</p> <p>⑤k児 「とれん？ちょっと貸してね。ほんと、とれん。待って、選んであげる。」</p>
10月29日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3歳児テラス前に色水のコーナーをつくる。 <ul style="list-style-type: none"> ・水の入ったビニル袋に粒を入れつぶして色を出す。 <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>教師が摘んできた実が色水遊びでつかったものかどうかみてもらい、色水づくりのきっかけづくりをする。</p> </div> <p>違う色をつくったり色の変化に興味をもったりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ジュズダマのネックレスをつくる。m児・f児・t児・i児などの6～7人がネックレスやブレスレットをつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ・a児・y児にどの実でつくるのか、やり方を教えてもらう。 <p>*3歳児のかかわりはない。B児がジュズダマをさわりながら5歳児のしている様子を見る。</p>	<p>⑤a児・Y児「(私たちがしたもの)同じ実だよ。」「そう！これこれ」</p>
10月30日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ○ ビニル袋・ペットボトルを選んでつかい、色をつくる。粒の数、水の量、色の濃さの出来具合は様々であり、一人で黙々とつくる。 ○ 4歳児の時につくったマラカスをみて「ゆり組のとき、つくったよね」とm児とk児が曲に合わせてマラカスを振る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 昨日の様子を見ていたり、5歳児と一緒に遊んだ幼児は材料が揃うとすぐに遊び始める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 5歳児2人のマラカスを振って遊ぶ様子をじっとみていた。D児・N児

4 週案 (10)月 第(5)週 (10/29~11/2) (もも)組

ねらい	<p>○身近にある秋の自然にふれながら、それらをつかった遊びを楽しむ。 ・ジュズダマ・ヨウシュヤマゴボウをつかった遊びを楽しみ、繰り返して遊ぶ。 ○年長児とかかわって遊ぶ楽しさを味わう。 ・年長児のしていることに興味をもってしようとしたり、教えてもらいながら一緒に遊んだりすることを楽しむ。 ○戸外で、友達と一緒に体を動かして遊ぶ。 ・フープや巧技台、太鼓橋などで体を動かして遊ぶ。</p>	環境の構成と援助の重点	<p>○ ペットボトルやアルミ缶 (250, 350ml) …マラカス・ジュース用を十分用意しておく。3・4・5歳児がかかわることを予想して、30本以上(コンテナ準備)は準備する。 ●興味をもたない幼児に声をかけたり、5歳児に誘ってもらおうようにする。 ○5歳児と3歳児がかかわりやすいようにテラス前に場を設ける。テラス前園庭にテーブルを出すときも幼児用机を準備する(顔がみえやすい)。 ●5歳児の力を積極的に活用し、頼りにしていることを伝えたり3歳児にすすんでかかわっている姿を認めていく。 ●遊具組み立てでは3歳児の思いを4・5歳児に伝え、一緒に多様なレベルで楽しめるような仲立ちをする。</p>	次週の予定	<p>6日 教育実習終了(おわかれ会) 7日 園公開日</p>
日	29日(月)	30日(火)	31日(水)	11月1日(木)	2日(金)
行事	なかよしタイム	誕生日会	シール帳集め		安全点検・親子絵本貸出
幼児の活動	<p>設定 アイダ体操・太鼓橋を渡る</p> <p>○身近な自然を使った遊びをする ・ジュズダマネックレス、ジュースつくり、マラカスつくり、(オナモミくっつけごっこ) ○体を動かして遊ぶ ・登り棒、タイヤ引き ○ダンゴつくり</p>	<p>誕生日会に参加する ・9:50~11:00 誕生日会、11:20 会食をする</p>	<p>身近な秋の実を使った遊ぶ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジュズダマネックレス ・マラカス(ジュズダマ・ドングリ)つくり ・ヨウシュヤマゴボウ色マジュースつくり 	<p>(コース)</p> <p>野菜の絵を描く</p>	<p>○巧技台やマルチパネを組み立てた遊具・コースで遊ぶ。</p>
保育の振り返り	<p>先週25日(木)、年長児の色水を目にするが、余り興味を示さなかった。今日はコーナーをもも組テラス前に設置したことから、つくる過程や様々な色水のできあがり、5歳児のつくっている姿をめにすることができ、二人以外はかかわって遊んでいた。始めにかかわった子どもはヤマゴボウの実がたくさんあり5歳児が5~6個入れるとそのようにして濃い色水が出来ていた。ダンゴつくりをしていた3人は実がなくなり思いの色づくりができていない。また、S子も5歳児が魔法の水で色を変えたようにしたかったが、まほうに水がなくなり、明日を楽しみにして帰る。明日は、まほうの水を十分に用意しよう、出すタイミング・提示の仕方を工夫しよう。また、素材置き場が位置を見直し、幼児の動線にそうしよう。</p>	<p>○ 誕生日会のため、通常と異なり、午後12:15から色水遊びを行った。K児とS子は昨日あれだけやりたがっていた色水をしなかった。機を逃したのか明日S子を誘って5歳児のところにおいてみよう。 色の作り方を知り今日は木もくもくとする子どもが多かった。また、5歳児のかかわりがわずかでまほうの水を出すタイミングがなかった。今日帰りに3歳児が紫色を作りたいと言っているので教えてくれるように頼んだ。意識をもって3歳児にかかわってもらえたらと願う。 ○ マラカスは、(曲)テープと一緒に年長児が4歳児の時につくったものを置いて興味を2人示し、マラカスを鳴らして踊っていた。D児とN児がやりたがっていた。5歳児のかかわりをK児に声をかけ、がんばってもらおう。</p>	○	○	
本歌	うみのおまつり	かみさまからのおくりもの	いろ いきてる!	()	めっきらもっきらどおんどん
歌	きのこ・おもちゃのチャチャチャ パセロリサラダ				

7-②本時の展開 年少3歳児 もも組

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友達と一緒に、身近にある木の実を使った遊びを楽しむ。 ○ 5歳児の遊びに興味をもち、5歳児を模倣して遊ぼうとする。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近にある木の実を使って、友達と一緒に遊びに必要なものや身につけるものをつくりたりして遊ぶ。 ・ 5歳児と一緒にしたり教えてもらったりすることを喜びながら、5歳児と同じ遊びをすることや新しい発見を楽しむ。
時間	<p>一日の生活の流れ</p> <p>予想される幼児の活動および本日までの遊びの様子と教師の願い <input type="text"/> ※ 物的環境の構成 T : 教師の援助</p>
<p>9:00</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 登園する。 ・ 出席シールを貼る ・ 荷物の整理をする。 <p>9:25</p> <p>9:30</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 園庭に集まる ○ アイダ体操をする ・ アイダ体操・太鼓橋わたりをする <p>9:40</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 好きな遊びをする。 (テラス) ・ ネックレスづくり ・ マラカスづくり (園庭) ・ ジュースづくり 	<p>飼育舎</p> <p>太鼓橋</p> <p>タイヤ</p> <p>タイヤ置き場</p> <p>遊具倉庫</p> <p>土山</p> <p>砂場</p> <p>ハウス</p> <p>(土だんごづくりをする)</p> <p>鉄棒</p> <p>ジャングルジム</p> <div data-bbox="875 814 1537 1207" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(共通の配慮)</p> <p>T: 幼児のイメージや思いが実現できるように教師も一緒に考えるとともに、年長児に教えてもらったり、アイデアを尋ねたりして作りあげられるように3歳児と5歳児のつなぎ役となる。</p> <p>T: 5歳児や友達と遊びを進めていく中で、友達のように気づいたり、認めたりできるように価値付けをする言葉かけをする。</p> <p>T: ハサミを持って歩いたり、床に置いたりしないように安全に留意する。危ない場合は、その都度声をかけ、注意を促す。</p> </div> <div data-bbox="1706 892 2546 1186" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>ジュースづくり</p> <p>ヨウシュヤマゴボウの実が色づき、5歳児がビニル袋やカップに入れ、手でつぶしながら色水をつくって遊んでいる。きれいな色水ができることを知り色づきの美しさを楽しんでほしい。</p> <p>粒の数や水の量で、好みの透明感が出来ることを5歳児の姿や言葉かけから学んでほしい。</p> <p>また、魔法の水を入れると、紫から、色が変わることを驚いたり楽しんだりしてほしい。</p> <p>※ ペットボトル・透明カップ・ヤクルト容器(入れ物)などを用意する。</p> <p>※ 用具として、ジョウゴ・ピッチャーなどを用意しておく</p> <p>T: つくった色水を大事に出来るように並べておくところを確保する。</p> <p>T: 5歳児がつくったきれいな色水を提示して興味をもたせる。</p> </div> <div data-bbox="1151 1396 1973 1512" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>マラカスづくり</p> <p>ジュズダマと素材を使って音が出る楽しさをあじわってほしい。</p> <p>また、曲に合わせて友達や5歳児と一緒に踊ることを楽しんでほしい。</p> </div> <div data-bbox="2041 1543 2819 1648" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>ネックレスづくり</p> <p>ジュズダマの芯を取るなど特徴に気付きながら作ってほしい。色々な色があるので、色選びも楽しみながらしてほしい。</p> <p>※ 危なくないようにナイロンひも(テグス)を準備する。</p> <p>T: 3歳児と5歳児が教えあうようにつなぎ役となる。</p> <p>T: 5歳児が「芯をぬくこと」など、説明してくれる姿を認め、3歳児と共に「何でも知っている」5歳児にあこがれの気持ちを抱く。</p> </div>
10:40	<ul style="list-style-type: none"> ○ 片づけをする。
10:55	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保育室に戻り、排泄、手洗いをする。
11:05	<ul style="list-style-type: none"> ○ 集まりをする。 ・ 手遊びをする。 ・ 楽しかったことを話す ・ 絵本を聞く 「いろ いきてる！」
11:15	<ul style="list-style-type: none"> ○ 降園準備をする。
11:30	<ul style="list-style-type: none"> ○ 降園する。